

ワークは、大企業でもスタートアップでも海外進出でも必ず役立ちます。インドで私が成功の糸口をつかめたのは、理論と現場を結び付けたからでした。大学生のうちに一通り学んでおけば、いざ社会人になってからも応用が効きます。

### 3) 現場感覚とロジックの両立

私はインドの工場で日々現場を見て回り、スタッフと直接コミュニケーションを取りながら、同時に会社本社が求める収益目標や品質基準も考慮しました。デスクワークだけではわからない課題が現場にはたくさん転がっており、そのリアルを理解しないと的確な判断はできません。海外駐在に限らず、どんな職場でも「理論と現場のバランス」は大事になるはずです。

### 4) 異文化の中でリーダーシップを磨く

自分と違う文化・言語・価値観を持つ人たちをまとめ、成果を出すには「信頼関係」「尊重」「協調」が不可欠です。指示命令だけでは動いてくれません。これは国内でも多様化が進む職場やリモートワークの増加など、さまざまな状況で同様です。大学生のうちからチーム活動やプロジェクト型学習に参加し、多様な人と協働するリーダーシップを少しずつ培ってください。

### 5) キャリアプランをグローバルに考える

私がインド駐在を経験したのは入社8年目以降でしたが、現在の企業では若手のうちから海外プロジェクトに関わるケースが増えています。製造業に限らず、ITやサービス産業、農業分野など、幅広い業種で海外や他文化との接点が拡大しています。「日本国内だけで完結する」と思わず、常に世界への展開を念頭にキャリアプランを描くと、選択肢や行動の幅が広がるでしょう。

## ○自分の強みを活かし、未知の世界に踏み出す

私は大学時代、部活（硬式テニス）に熱中し、就職先は総合化学メーカーと決まるまでは特別に「海外で働きたい」と意識していたわけではありませんでした。しかし社会に出てみると、世界を相手に仕事をする機会が巡ってきて、自分でも想像しなかった経験を積むことになりました。まさにグローバル時代ならではのキャリアの面白さだと思います。未知の環境に飛び込み、言葉や文化が違う人たちをマネジメントするのは簡単ではありませんが、それゆえに得られる「視野の広がり」と「人間的成長」は非常に大きい。私の場合、インドにおけるダイバーシティとの出会いは、マーケティングやローカライゼーションだけでなく、自らのリーダーシップや柔軟性を鍛える大きな転機となりました。帰国後、本社で新事業推進に関わり、イノベーションを創出する仕事にも携わっているのは、この海外経験のおかげです。

大学生の皆さんには、「自分の強みを見つけ、それを使って未知の世界に踏み出す」勇気を持ってほしいと思います。国内外を問わず、多様な人たちと協力しながら成果を出す力はこれからの社会でますます求められるはずです。グローバルかローカルかという二者択一ではなく、「グローバルなダイバーシティをローカルに活かす」ような働き方も増えています。どうか柔軟な発想でキャリアを描き、未踏のチャンスを楽しんでください。

## ◎おわりに

エバーグリーン講座は、現役の商大生が卒業生のキャリアに触れることができる貴重な機会であり本学のキャリア教育の中心的な科目のひとつです。登壇していただく講師のみなさまは、実際の仕事内容や業界の最新情報を紹介しつつ、ご本人のキャリアの変遷とその節目における大小の決断、その決め手となった具体

的な事例や長い社会人生活を振り返って獲得した職業観、人生観といった多彩な話題にも触れていただき、毎回講師の職業人生が凝縮されたエキサイティングな 90 分間を味わうことができます。本稿の狙いはそれらの講義の随所で講師が（ときに無意識に）例示する「社会人基礎力」の具体的な実践と発揮、およびそれらにつながる背景と文脈に焦点を当て「先輩たちの豊かな職業人生から社会人基礎力を学ぶヒント」を示すことにあります。

今日の大学生たちは今後の社会がどのようなかたちになるのかという大きな不安を抱えながら一人ひとりが自らのキャリアの未来に向き合っています。この不確実さが増す時代だからこそ、先達のキャリアの中で磨かれてきた時代を超えた仕事の本質、人生の岐路における究極の選択、多くの出会いの中で築いてこられた人脈という財産など、エバーグリーン講座が伝えるものは、受講生にとって暗闇の中の一筋の光となっているに違いありません。

なお、本稿の素材となった令和 5 年度エバーグリーン講座の講義録は過去 10 年間に引き続きライターの谷口雅春さんに作成していただきました。講義期間中は毎週小樽まで通ってすべての講義を聴講していただくことで、講師たちの想いと現役学生との心の交流を汲み取り素敵な言葉にまとめ上げていただきました。ここに記して謝意を表します。

令和 6 年度  
**社会人基礎力白書**  
大学生の就業力向上のために

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発 行   | 2025 年 4 月 1 日                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 発 行 者 | 公益社団法人 緑丘会<br>〒170-6057 東京都豊島区東池袋 3-1-1 サンシャイン 60(57 階)<br>Tel : 03-3981-2340 URL : <a href="https://ryokkyu.or.jp/">https://ryokkyu.or.jp/</a><br>国立大学法人北海道国立大学機構 小樽商科大学<br>〒047-8501 小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号<br>Tel : 0134-27- 5206 URL : <a href="http://www.otaru-uc.ac.jp/">http://www.otaru-uc.ac.jp/</a> |
| 印 刷   | ヤマノ印刷株式会社<br>〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-6-15 井門神田駅前ビル<br>Tel : 03-3253-8851 Fax : 03-5297-2713                                                                                                                                                                                                                 |